

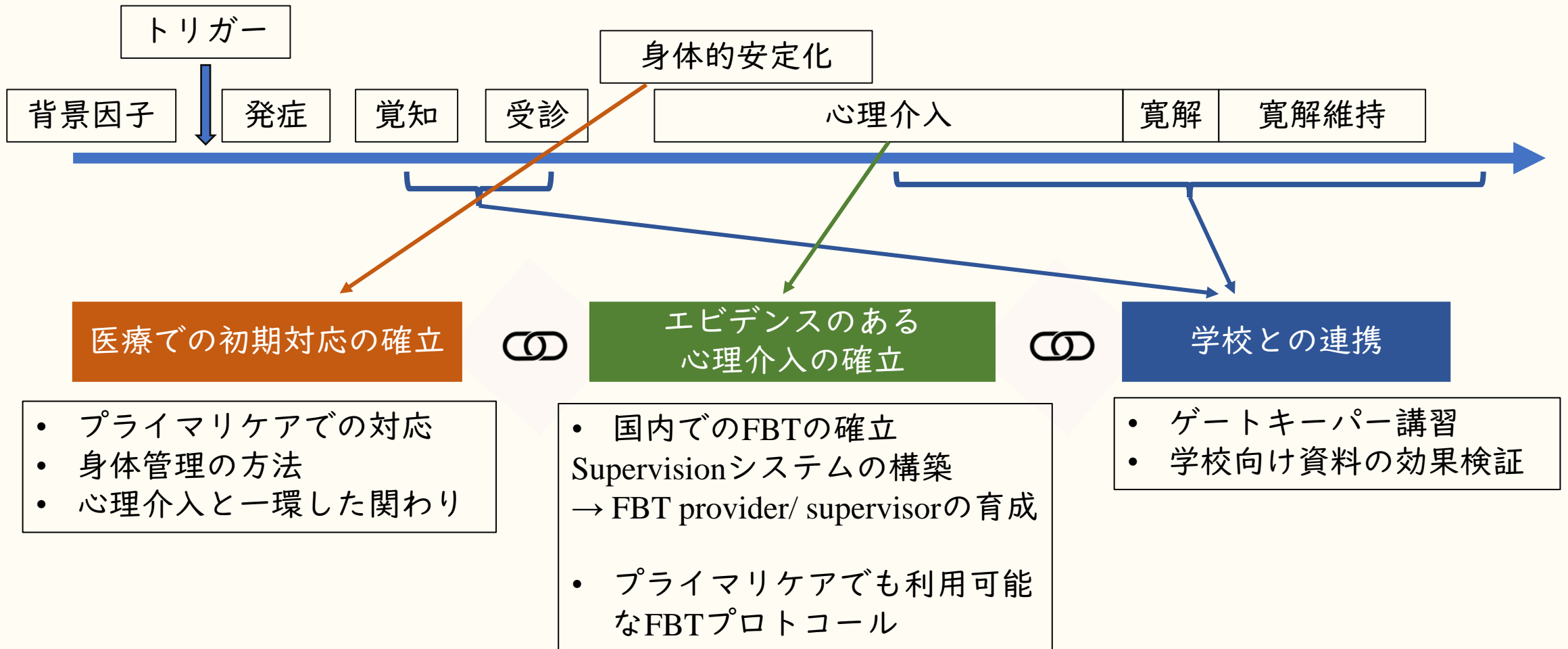
「コロナ禍が10代摂食障害患者に与える影響」および 「摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための 対応指針」の活用状況のアンケート調査

獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター

作田 亮一

児童・思春期摂食障害診療の向上の向けて

※ COVID-19の影響



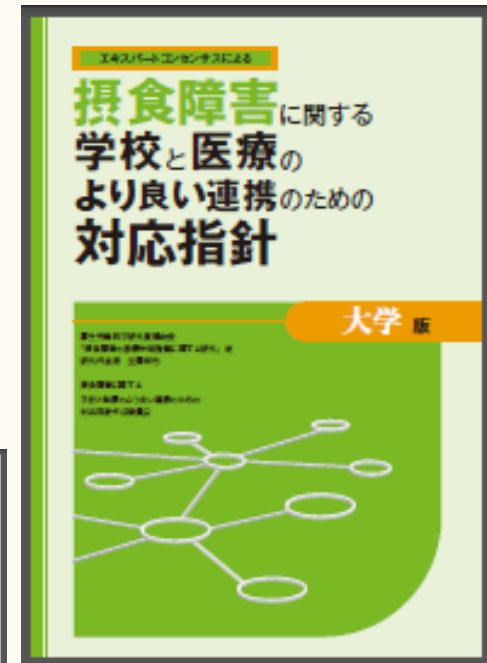
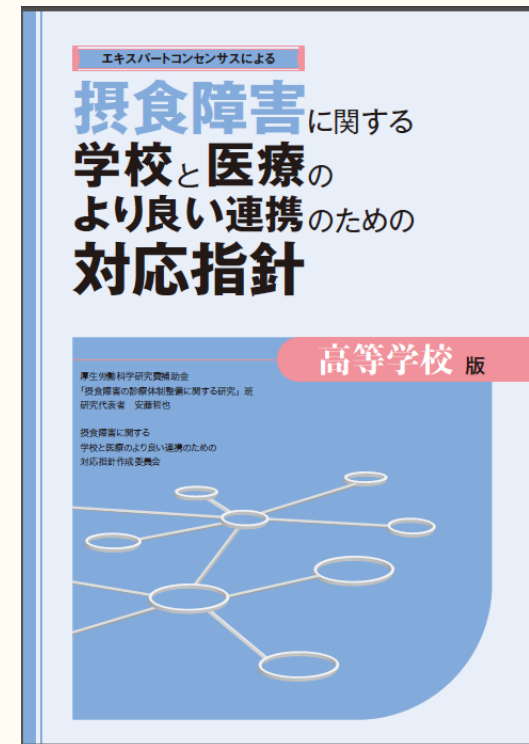
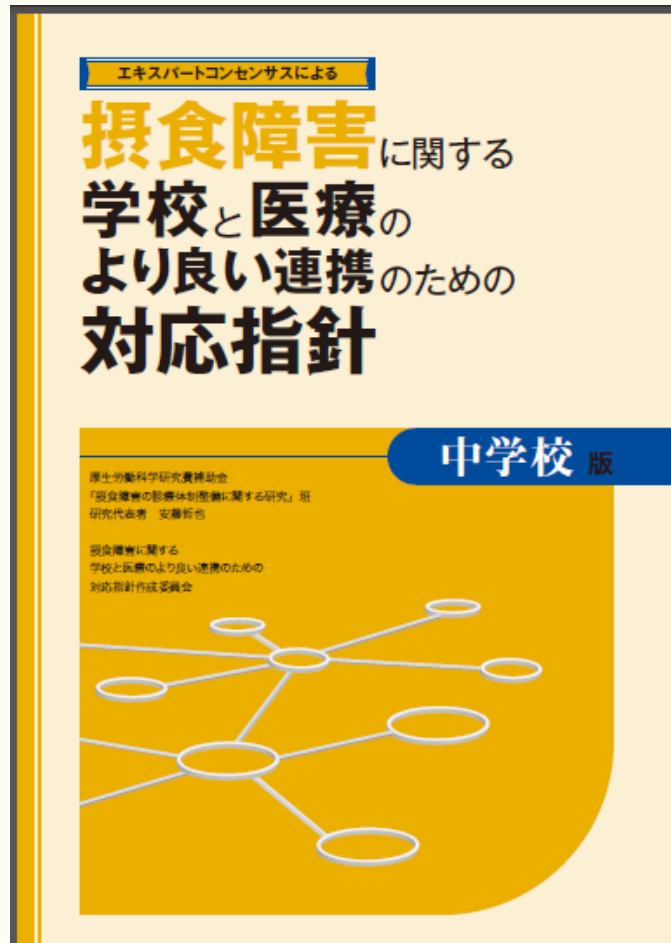
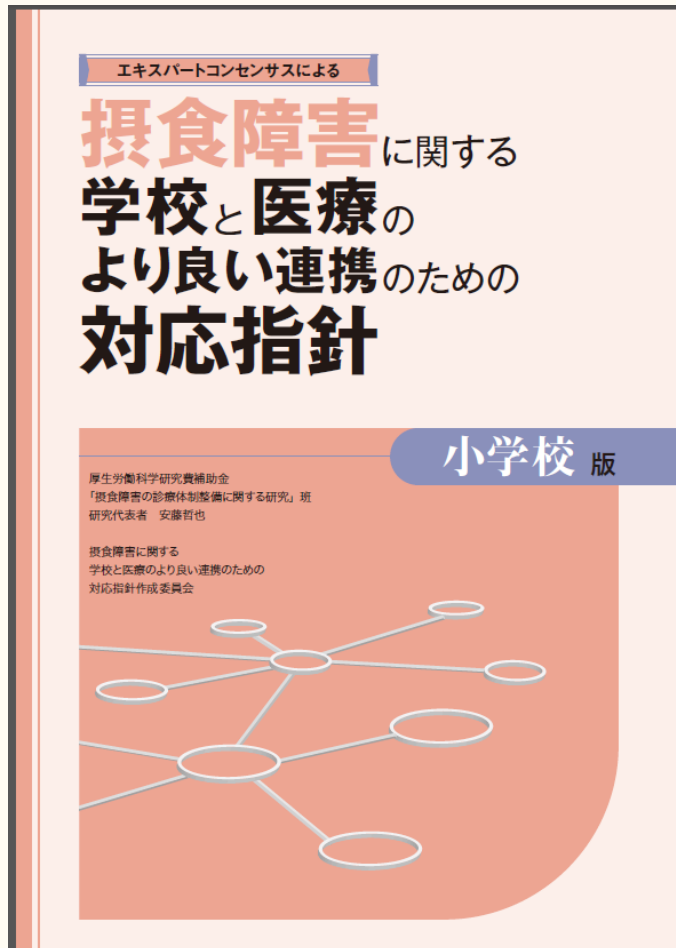
学校・養護教諭用 対応指針

平成28年度 厚労科研

「摂食障害の診療体制整備に関する研究」安藤班

摂食障害情報ポータルサイトHP（参考資料）からダウンロード

<https://www.edportal.jp/pro/material.html>



「コロナ禍が10代摂食障害患者に与える影響」および 「摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針」 の活用状況のアンケート調査

目的

コロナ禍が10代の摂食障害に与える影響を検証することを目的とし
学校現場における状況について**大規模調査**を実施する。

対象と方法

対象：都道府県養護教諭会等を通して情報提供を受けWeb siteにアクセスした養護教諭1363名

方法：インターネット アンケート調査（質問数 約30問）

有効回答率 $1360/1363 = 99.8\%$

本調査は、以下が実施した

- ・一般社団法人日本摂食障害協会
- ・厚生労働省科学研究費「中里班：摂食障害に対する標準的な治療方法 心理的アプローチと身体的アプローチとその研修方法の開発及び普及に資する研究（中里班）」小児摂食障害WG 分担研究者作田亮一

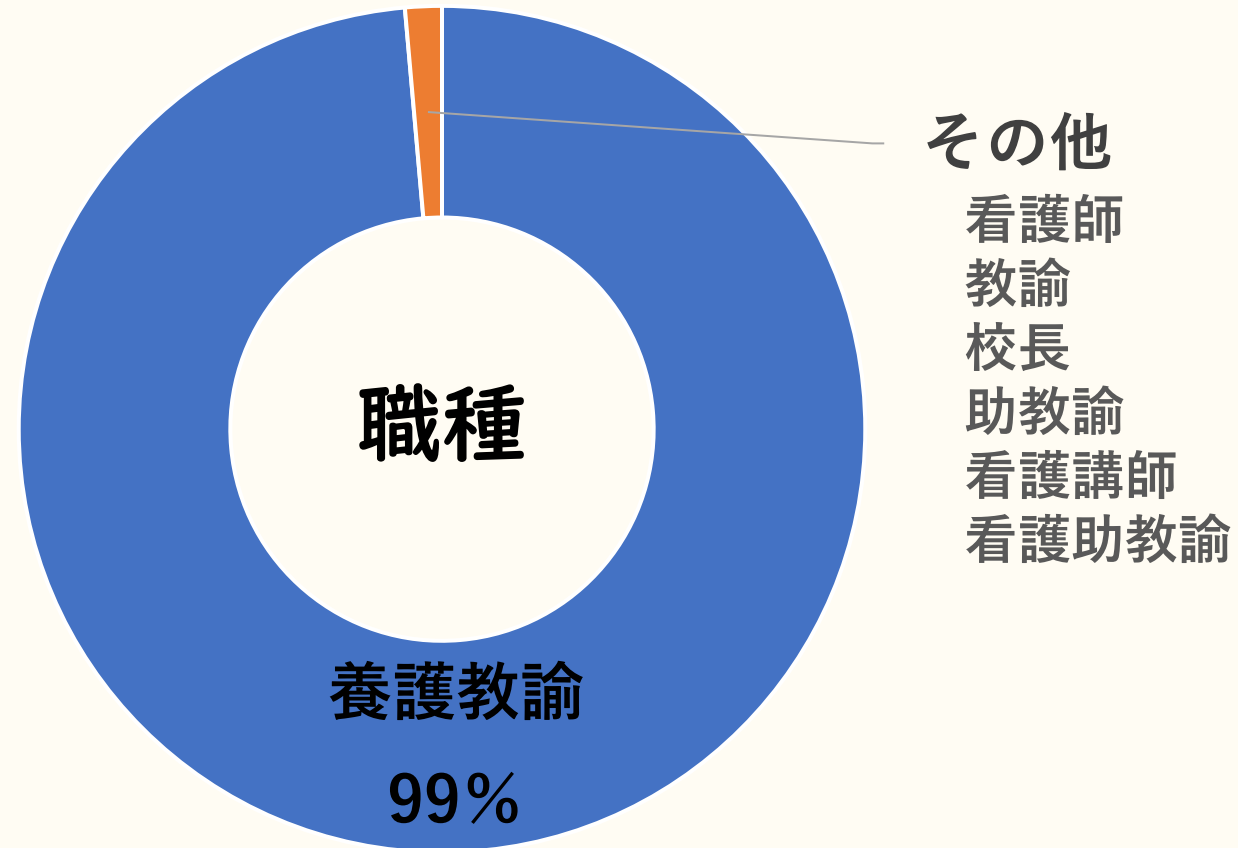
研究協力者：高宮静男（たかみやこころのクリニック）、大谷良子・井上建・北島翼

（獨協医大埼玉医療センター子どものこころ診療センター）

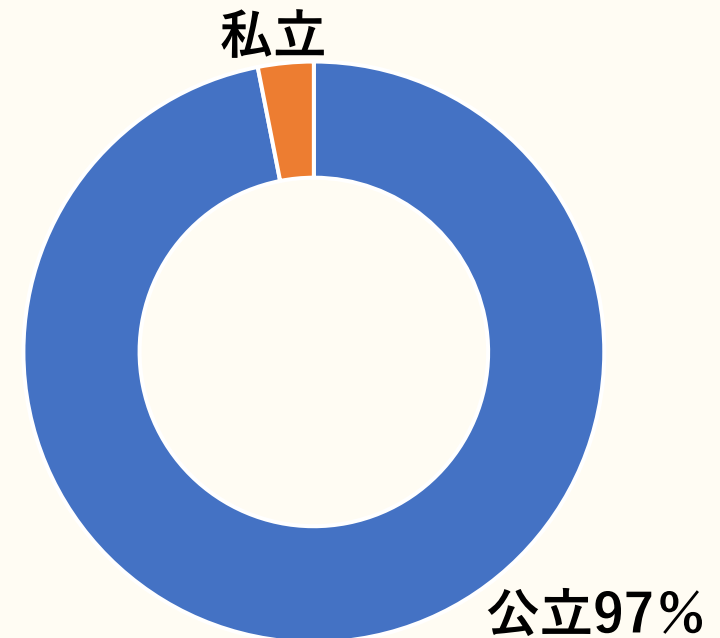
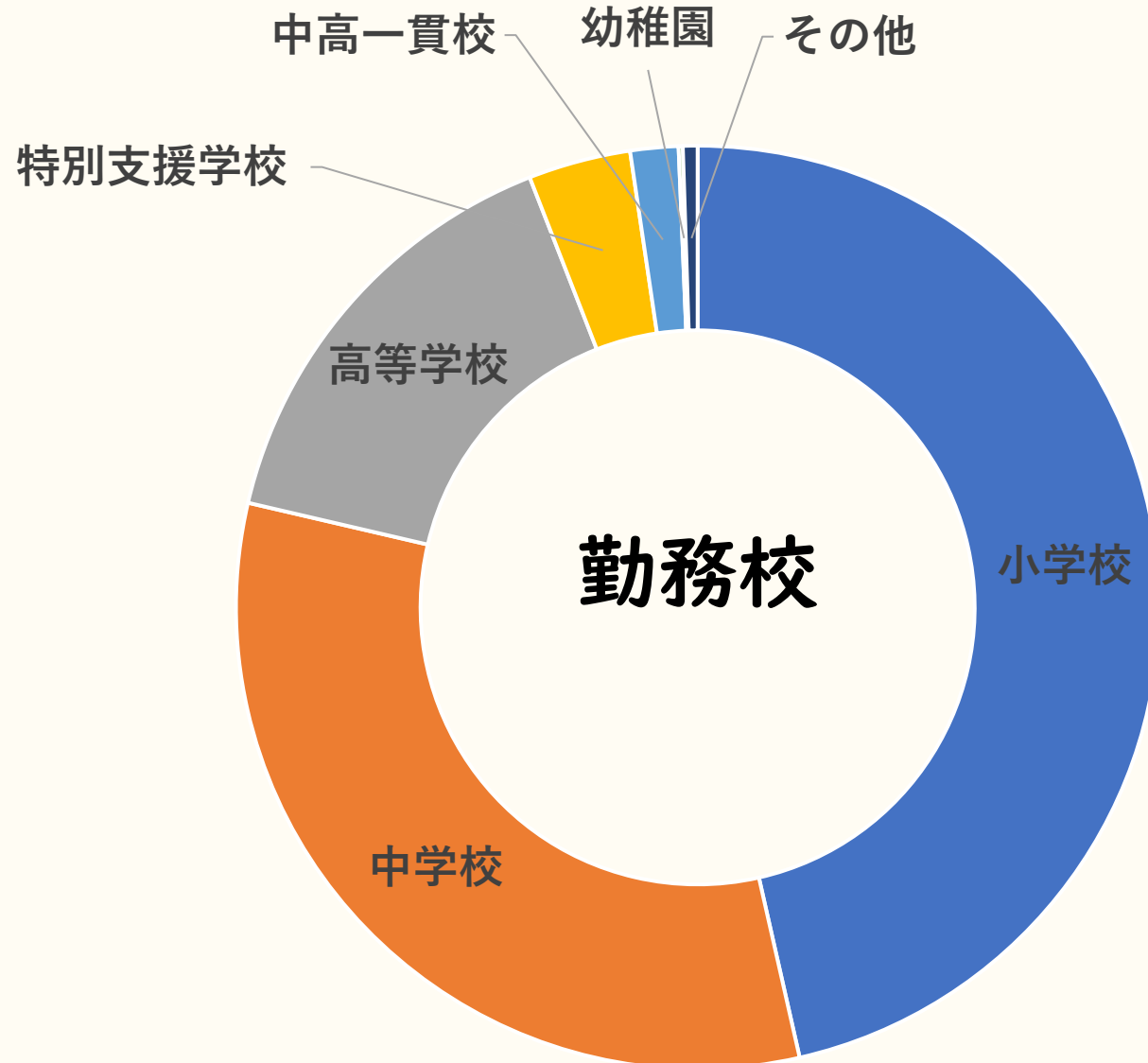
獨協医科大学埼玉医療センター 倫理審査委員会の承認を得た（承認番号22001）

対象者の属性

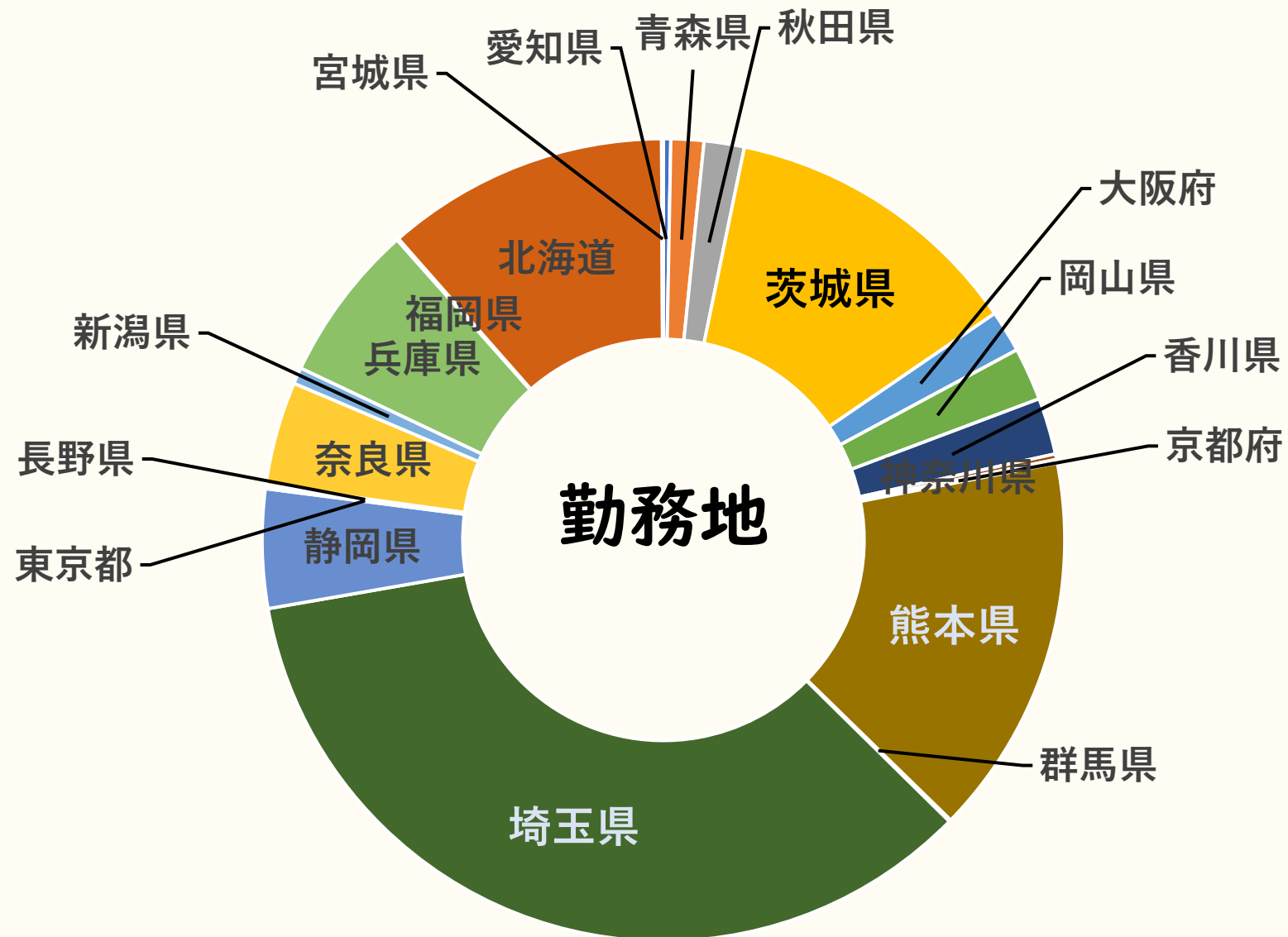
有効回答率
1360/1363



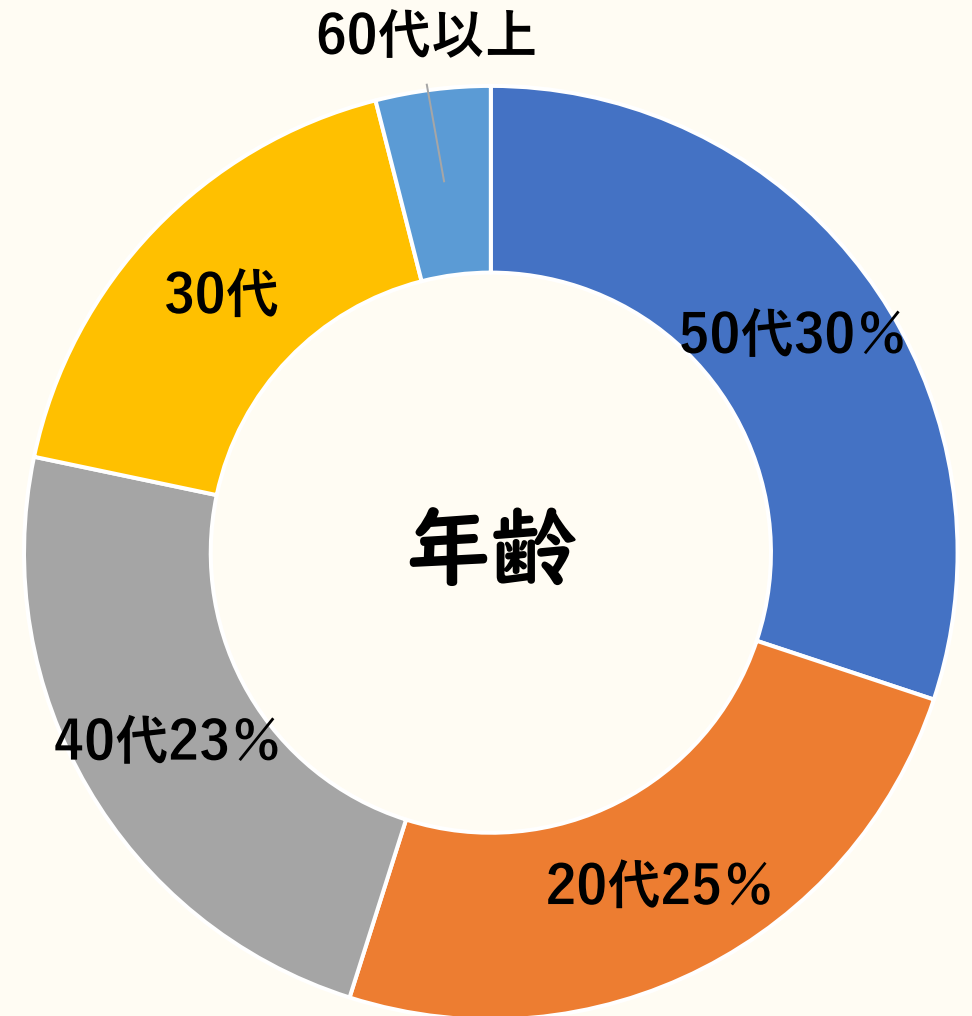
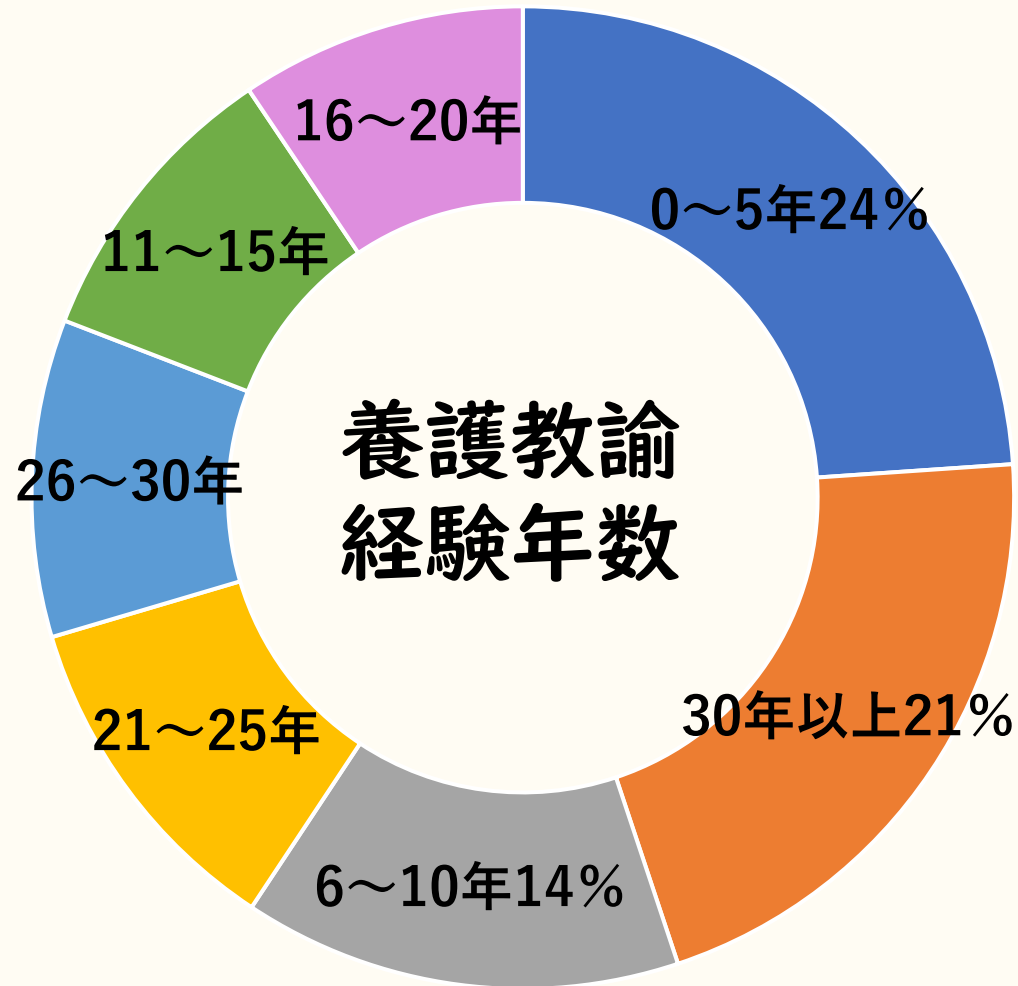
対象者の属性



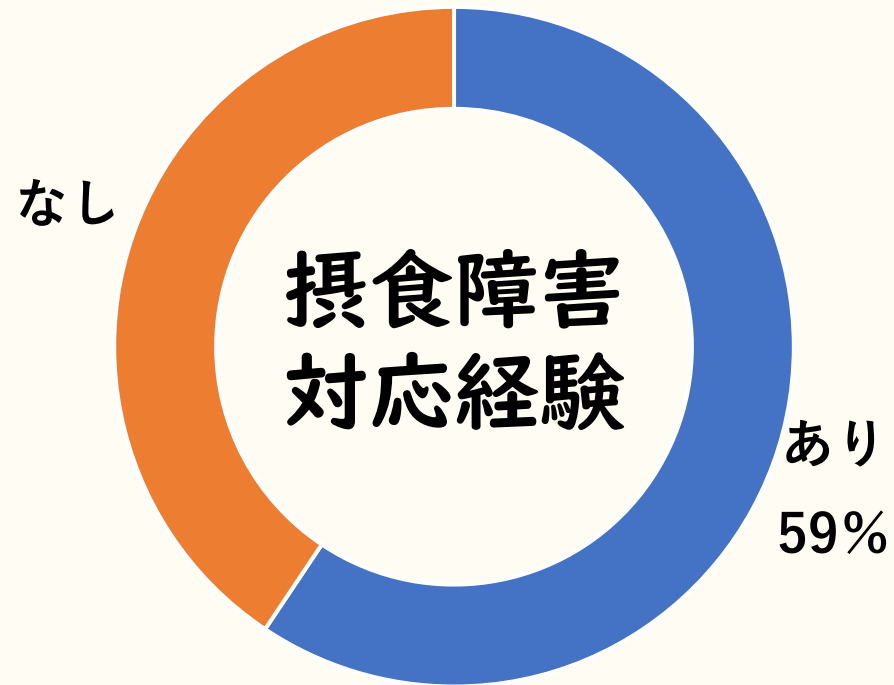
対象者の属性



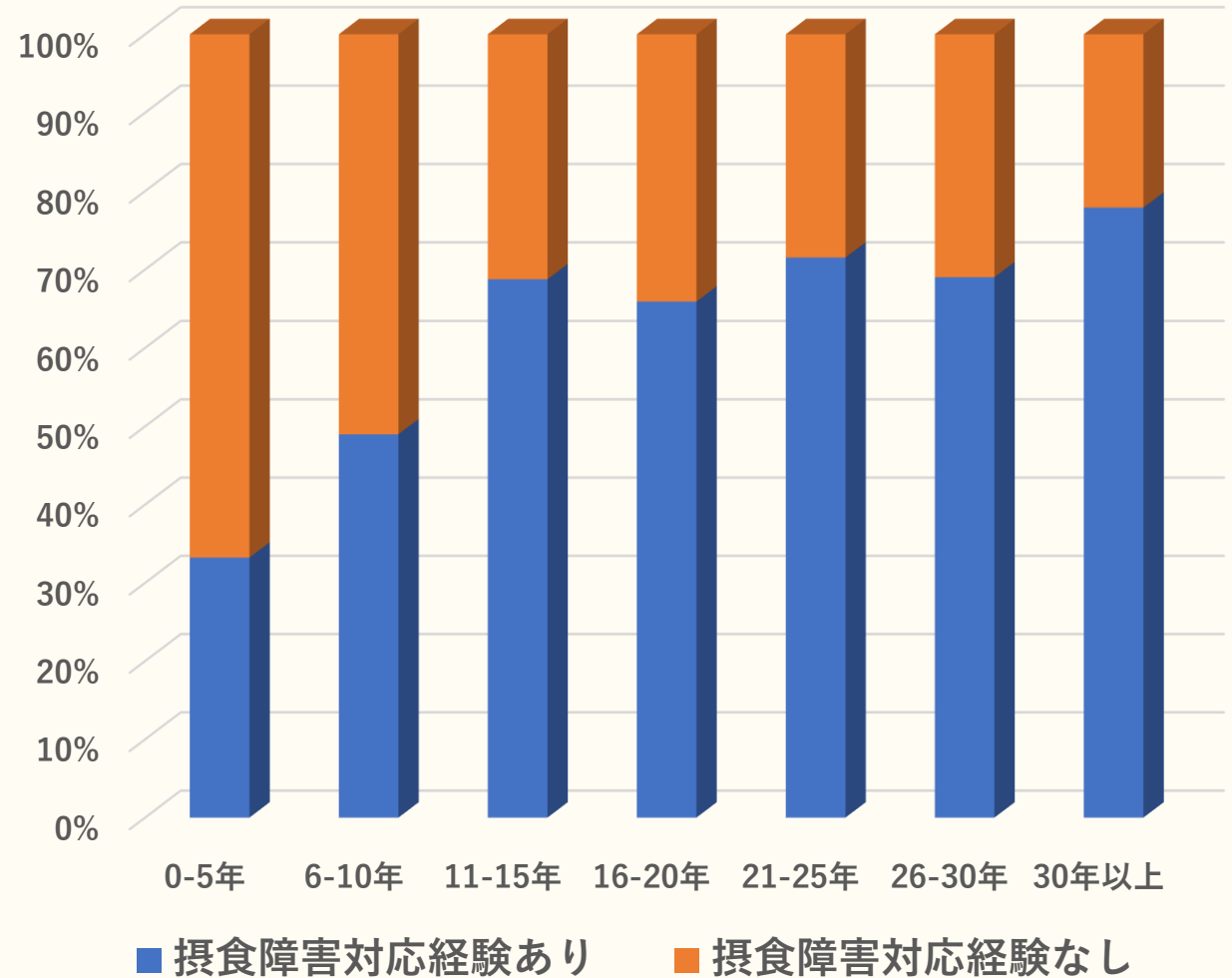
対象者の属性



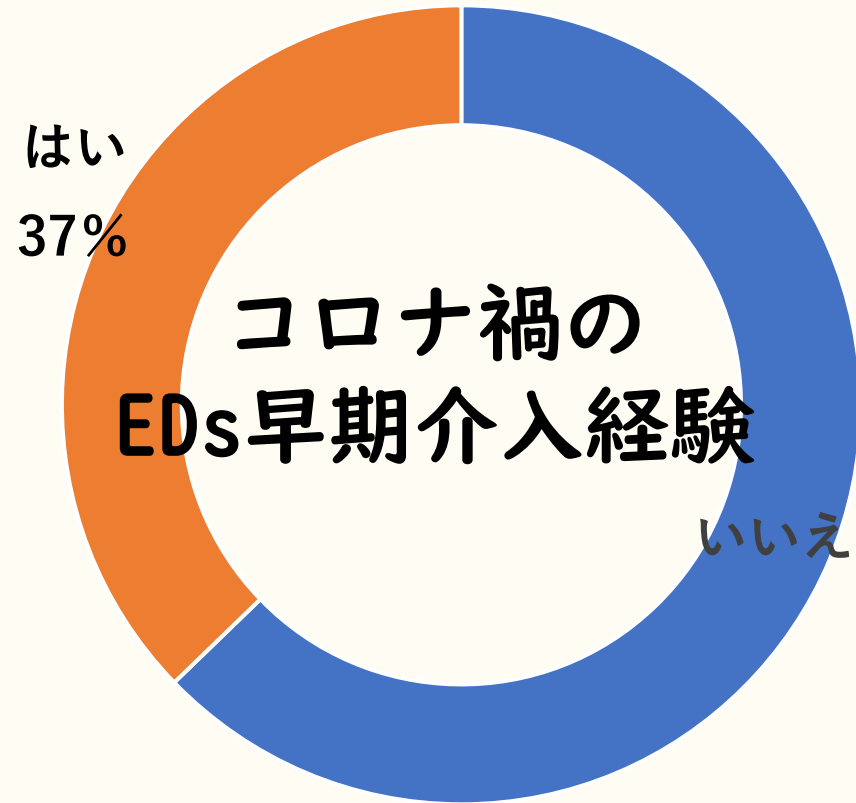
摂食障害対応の経験



養護教諭経験年数と摂食障害対応経験

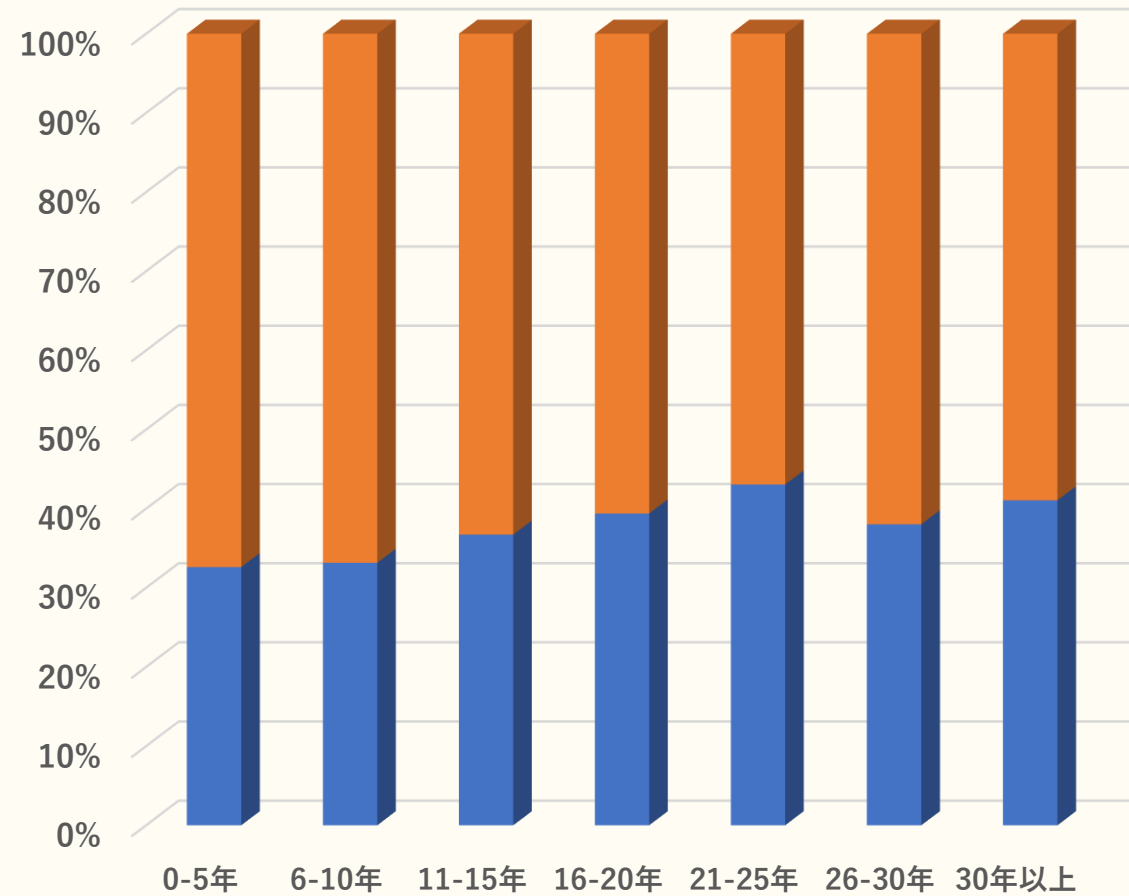


コロナ禍での変化



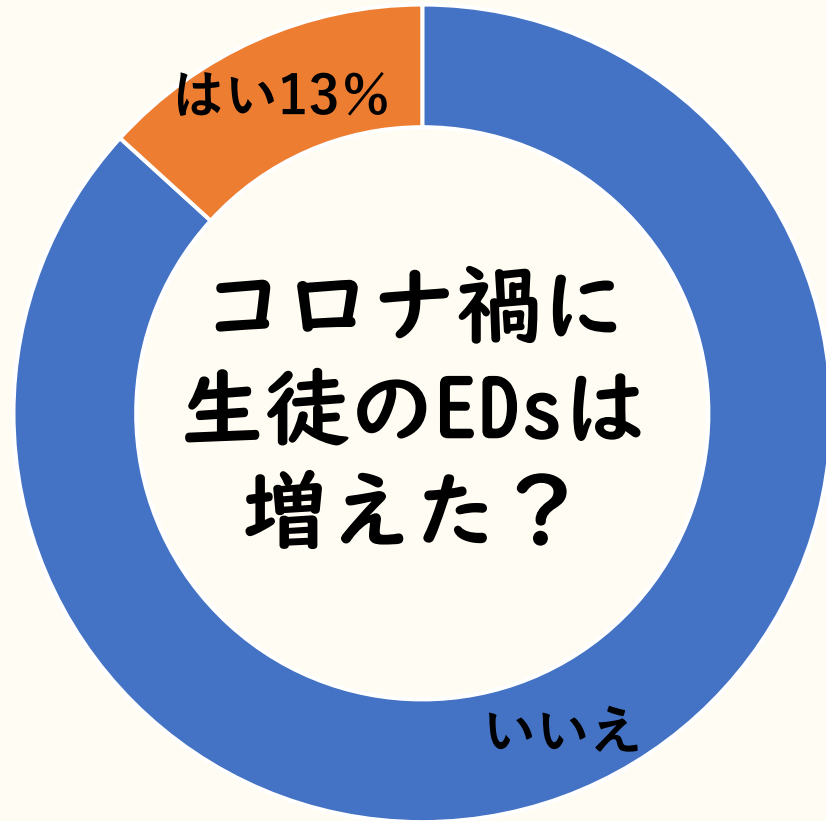
※EDs：摂食障害の子ども（疑いを含む）

養護教諭経験年数とコロナ禍の早期対応経験



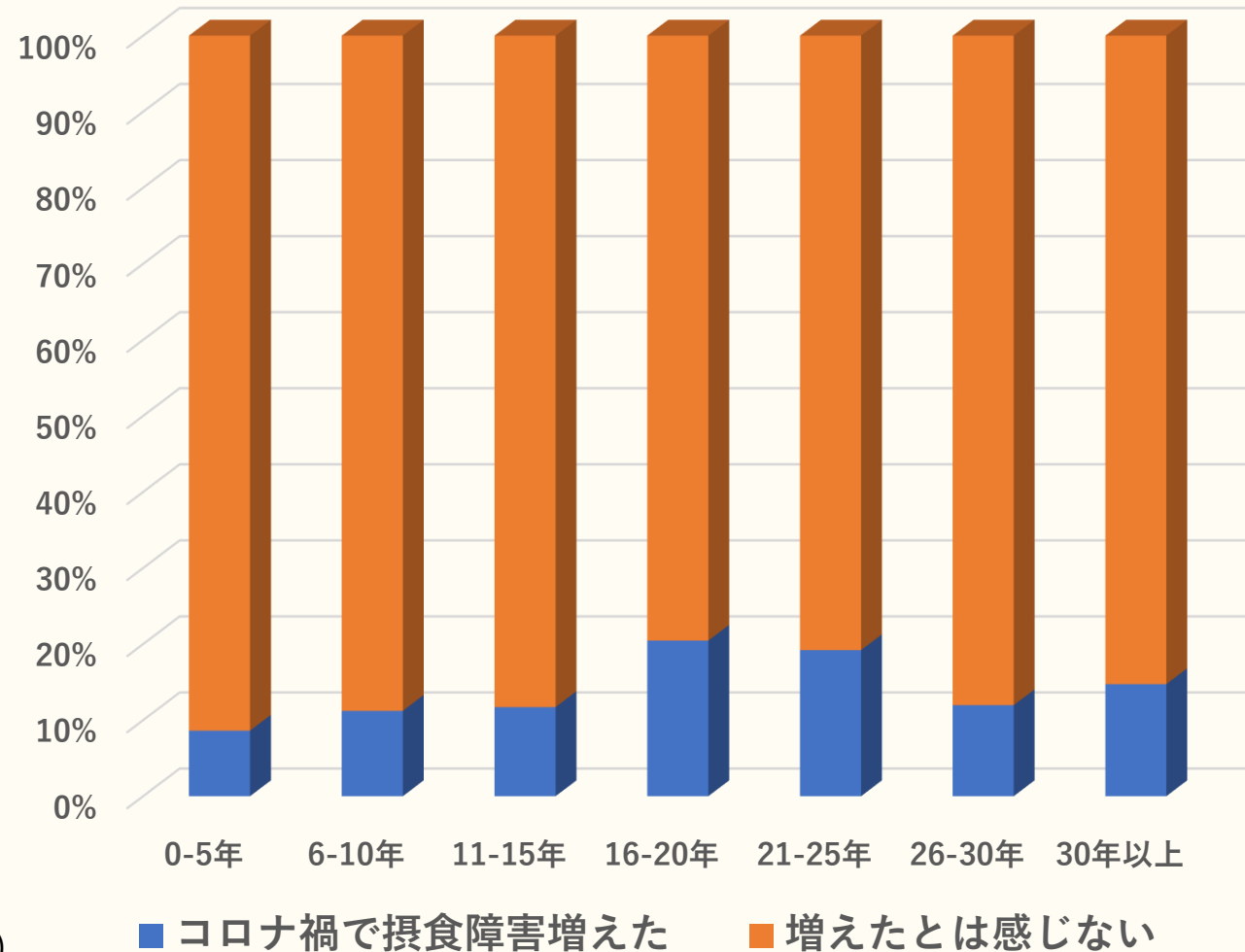
■ コロナ禍の早期対応あり ■ コロナ禍の早期対応なし

コロナ禍での変化

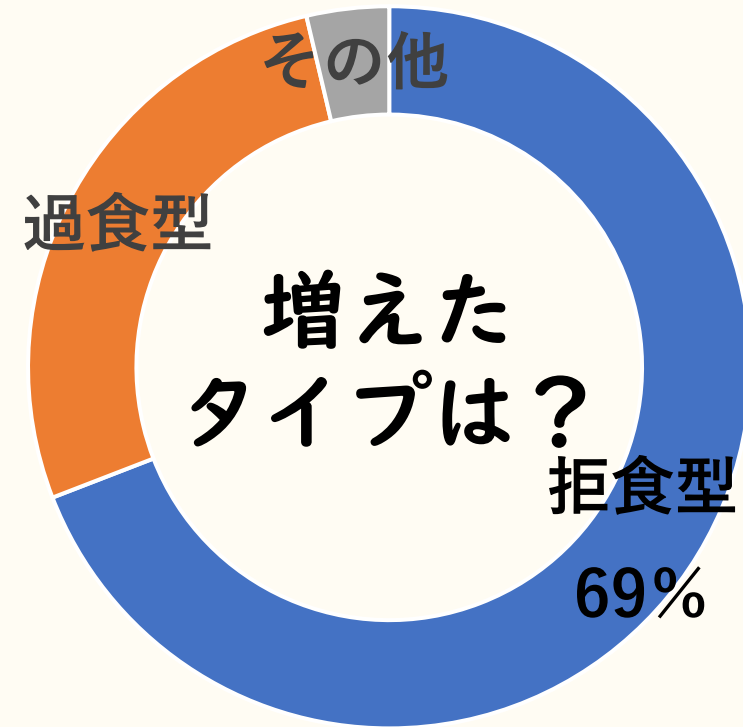
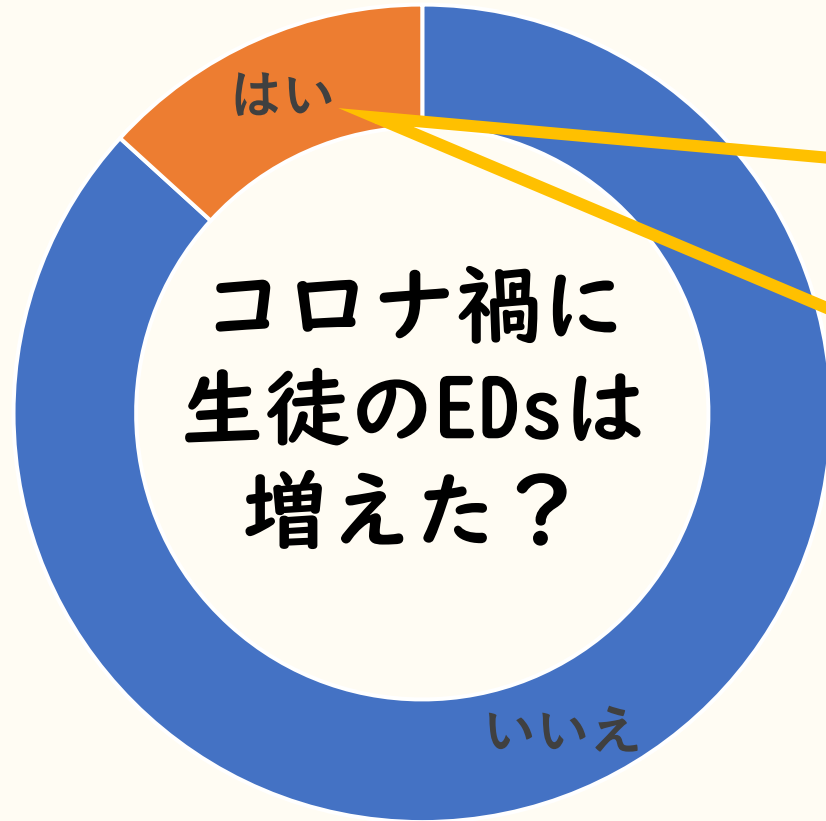


※EDs：摂食障害の子ども（疑いを含む）

摂食障害経験年数とコロナ禍で摂食障害が増えた実感

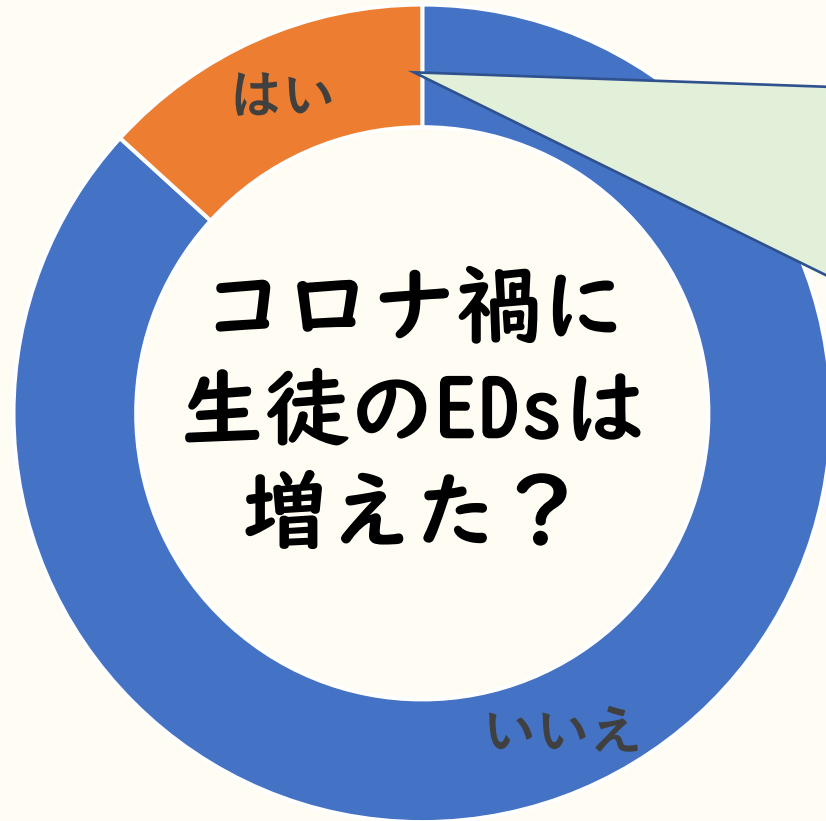


コロナ禍での変化



※EDs：摂食障害の子ども（疑いを含む）

コロナ禍での変化

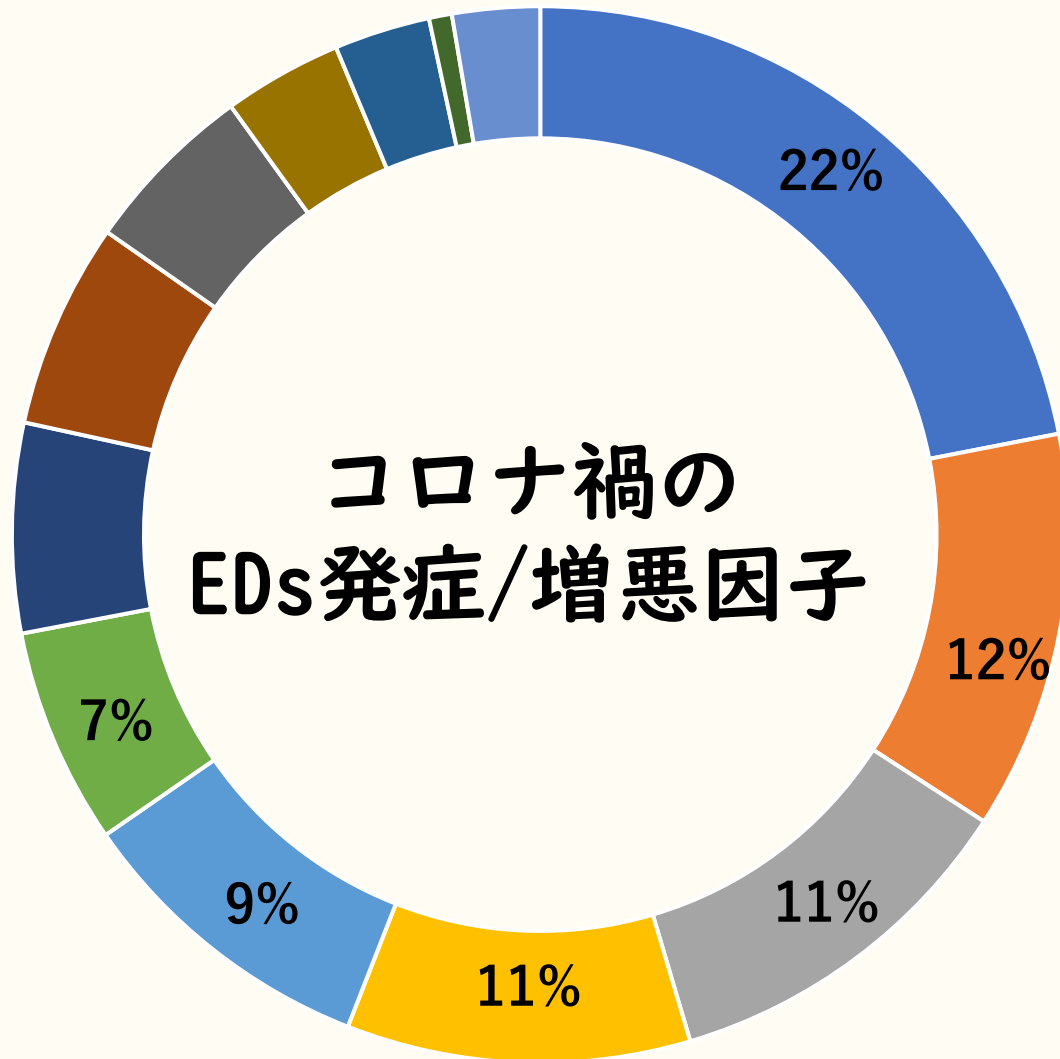


どの程度増えたか？（自由記載から抽出）

- 例年は1人程度だったがコロナ禍では2~3人に増えた
- 例年は摂食障害の生徒がいない／数年に1人程度の学校も、コロナ禍で毎年少なくとも1人は摂食障害の生徒がいた
- 例年摂食障害疑いは10人程度だったがコロナ禍では約30人に増えている
- コロナ禍に治療中の生徒が毎年入学するようになったり、入学時から治療が必要な生徒が増えた
- 例年では摂食障害の生徒がいなかった学校でも、コロナ禍で摂食障害の生徒が現れている

※EDs：摂食障害の子ども（疑いを含む）

コロナ禍での変化



※複数回答可

- 生活リズムの変化
- 長期休校のために生徒の対人交流が減少したこと
- コロナ太りを気にしたこと
- 学校に行けないこと
- 新型コロナウイルスに対する不安
- リモート勤務等の家庭環境の変化
- 部活に参加できない、練習できないこと
- 友達のダイエット
- わからない
- 学習の遅れの不安
- 学校がいつ再開するか分からないこと
- 保護者の仕事に関する誹謗中傷
- その他

コロナ禍での変化

どのような内容？（自由記載から抽出）

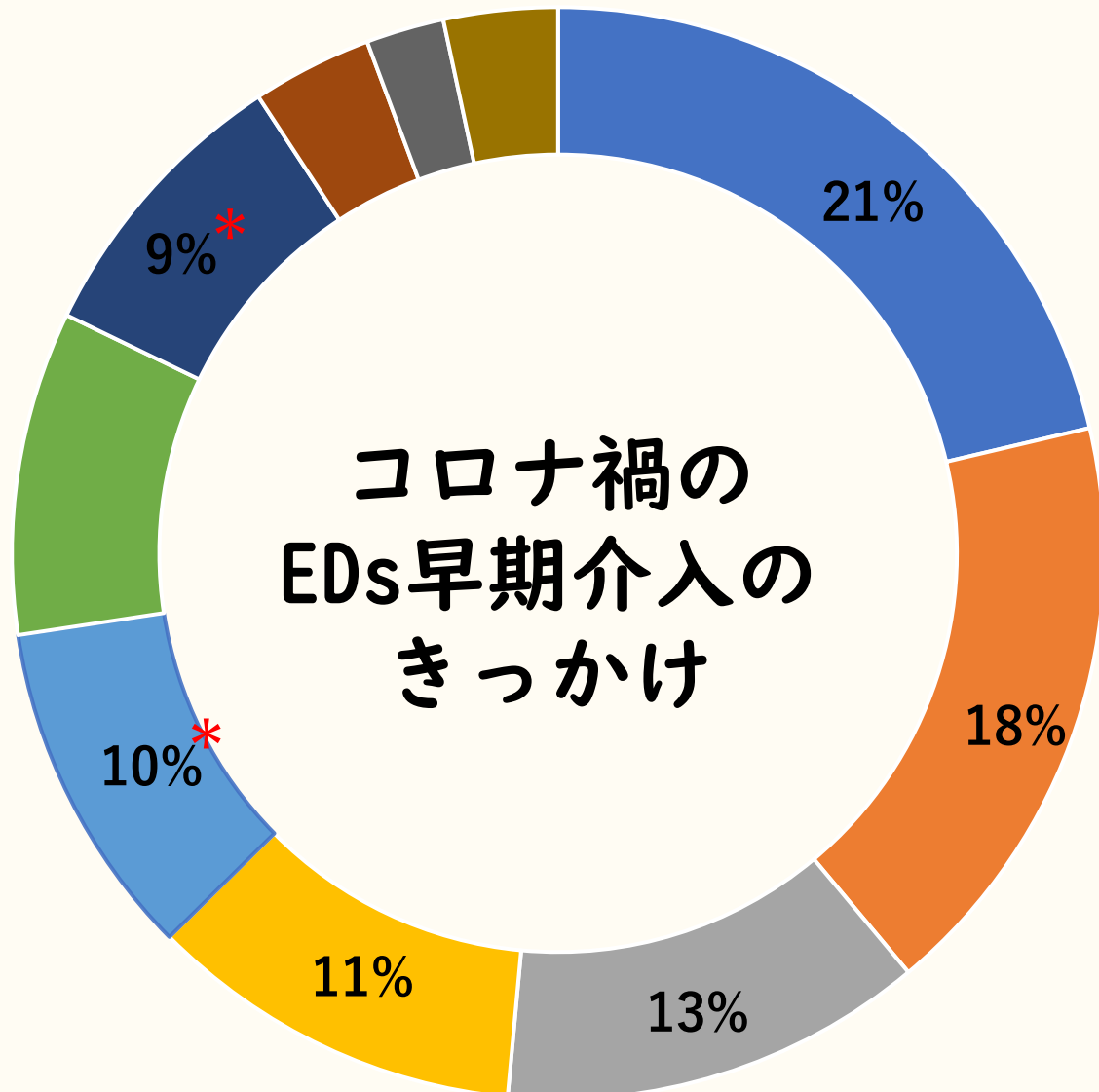
- SNSやアプリを通じて自分の容姿を他人と比較している
- 芸能人やタレントの容姿やダイエット情報によって、痩せることへのプレッシャーが増している
- 誤ったダイエット情報に触れる機会が増え、真偽を確認できずに独自の判断でダイエットを開始している
- 好きなインフルエンサーの影響で自分もダイエットを始めている
- SNSを通じて瘦身願望を持ち、具体的な痩せ方の情報も得ている
- 子どもたちがインターネットで情報収集を始める年齢が低く、様々な影響を受けやすい
- 細いアイドルやモデルを検索し、カロリー計算や痩せる栄養摂取方法を真似ている

コロナ禍の
EDs発症/増悪への
SNSの影響

はい
12%

いいえ

コロナ禍での変化

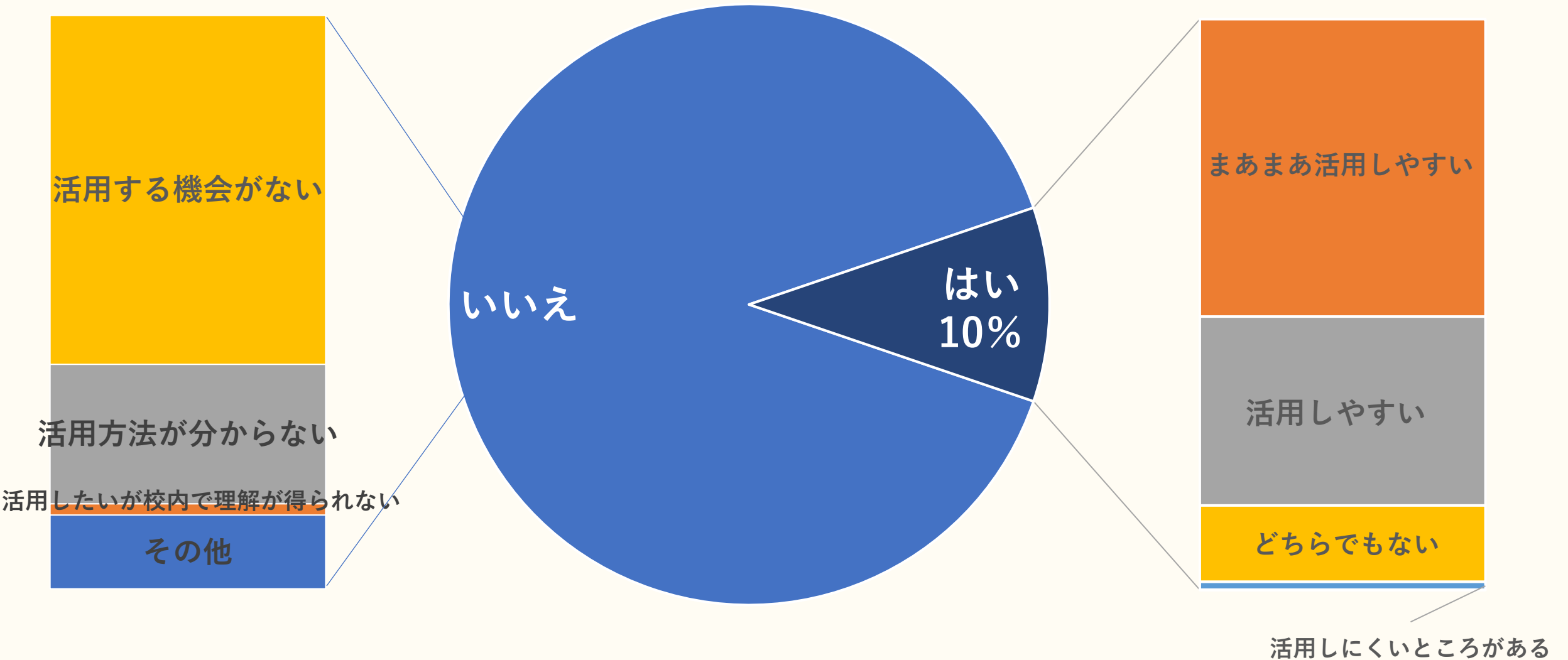


※複数回答可

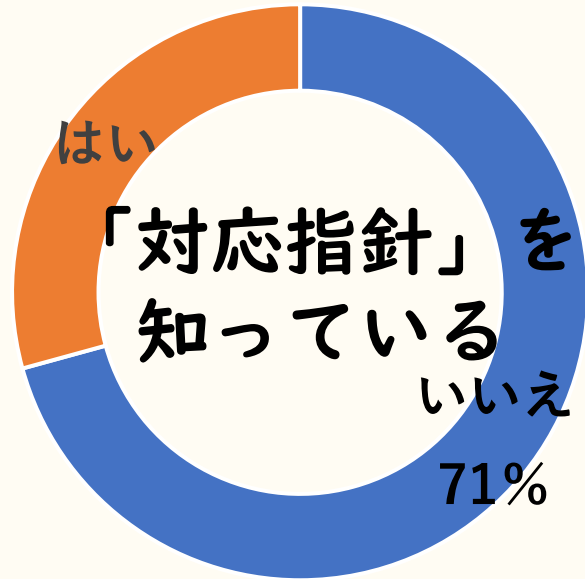
- 身体計測
- 健康診断
- 担任からの相談
- 健康観察
- 児童生徒本人からの情報 *
- わからない・不明
- 家庭からの相談 *
- 部活顧問からの相談
- 個人の周囲の友達やクラスメイト
部活動の先輩から相談
- その他

「対応指針」に関して

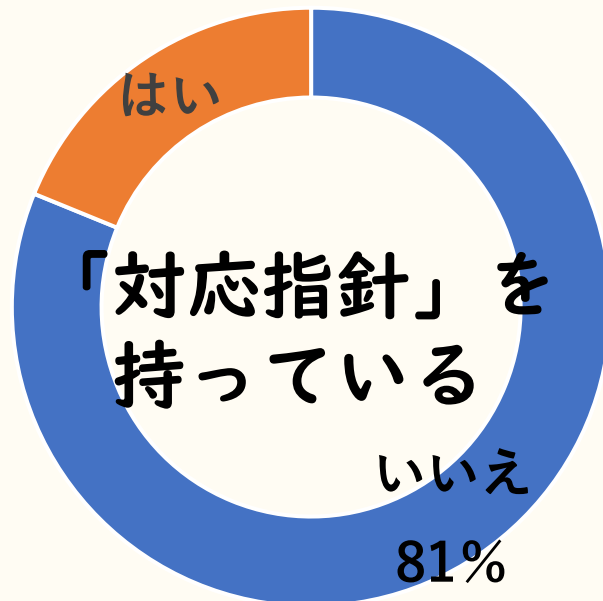
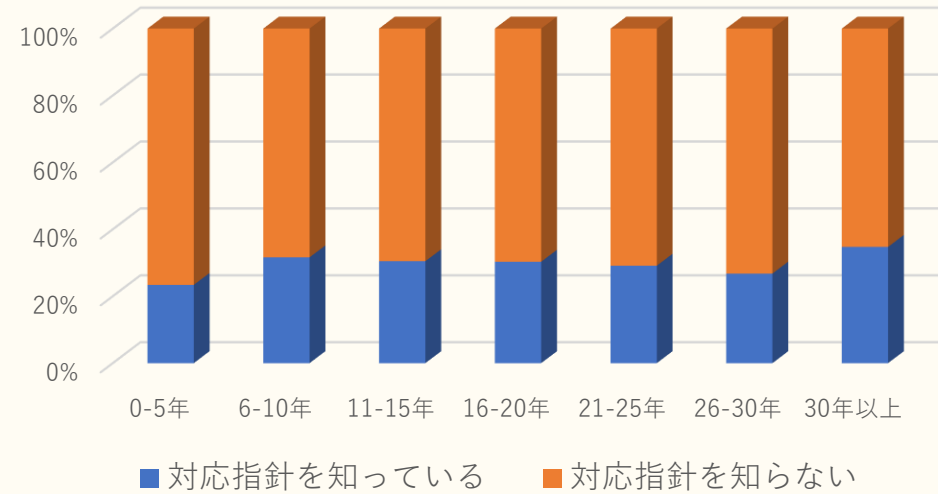
「対応指針」を実際に見童生徒の対応に活用したことがある？



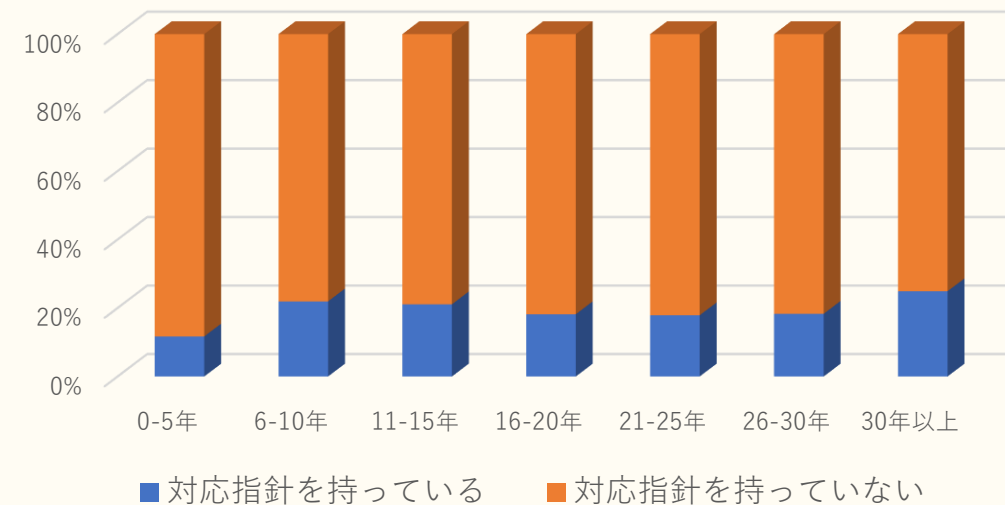
「対応指針」に関して



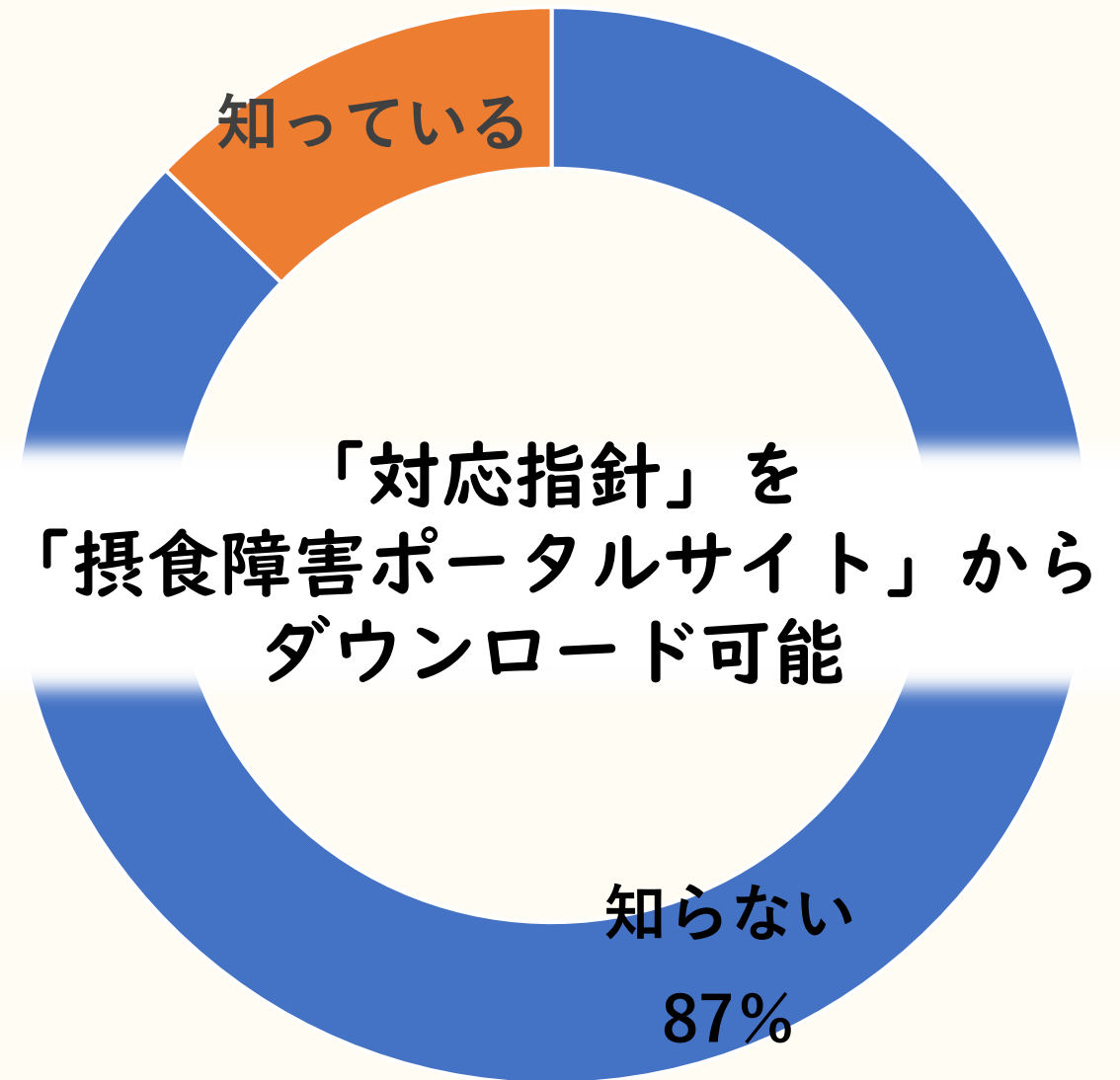
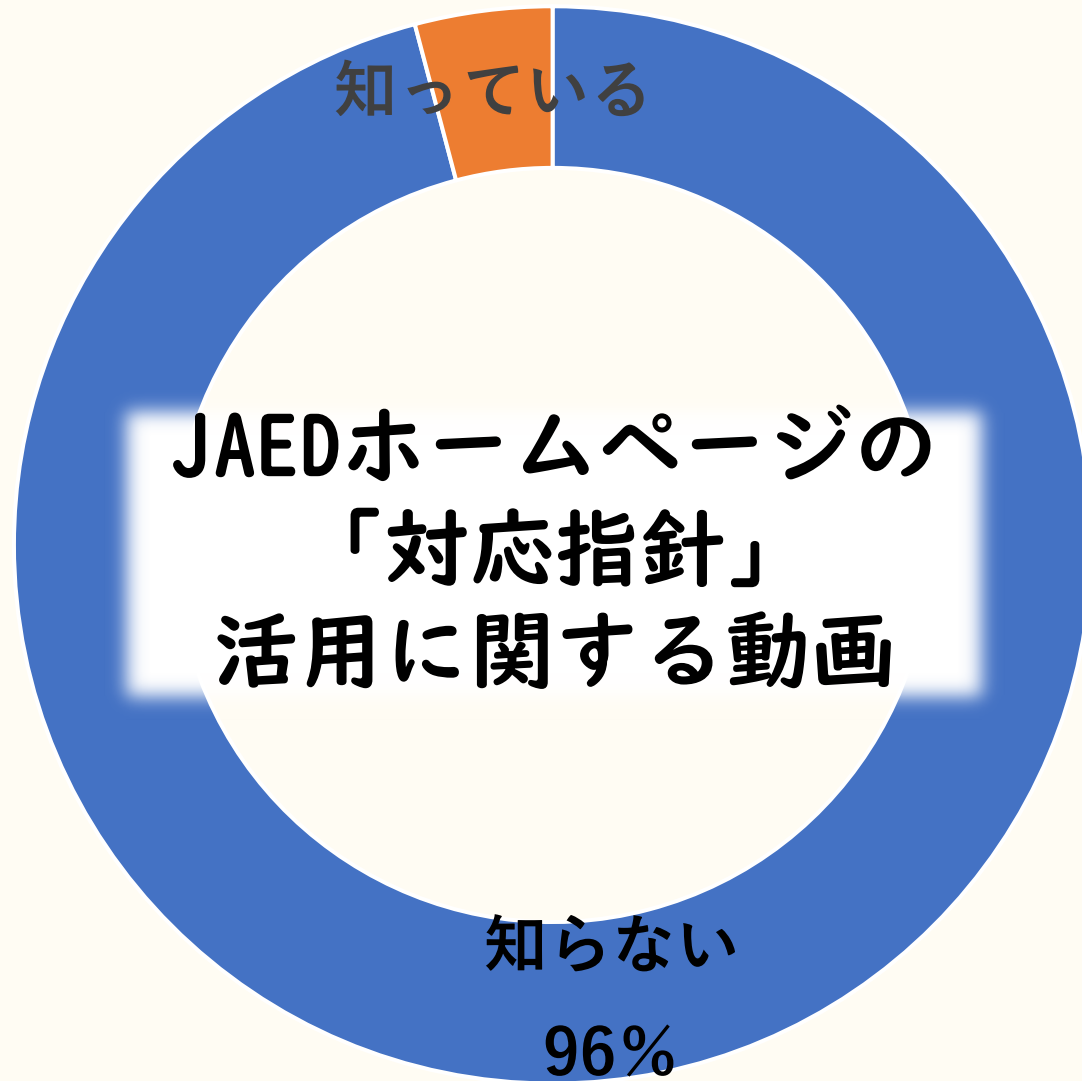
養護教諭経験年数と「対応指針」の周知



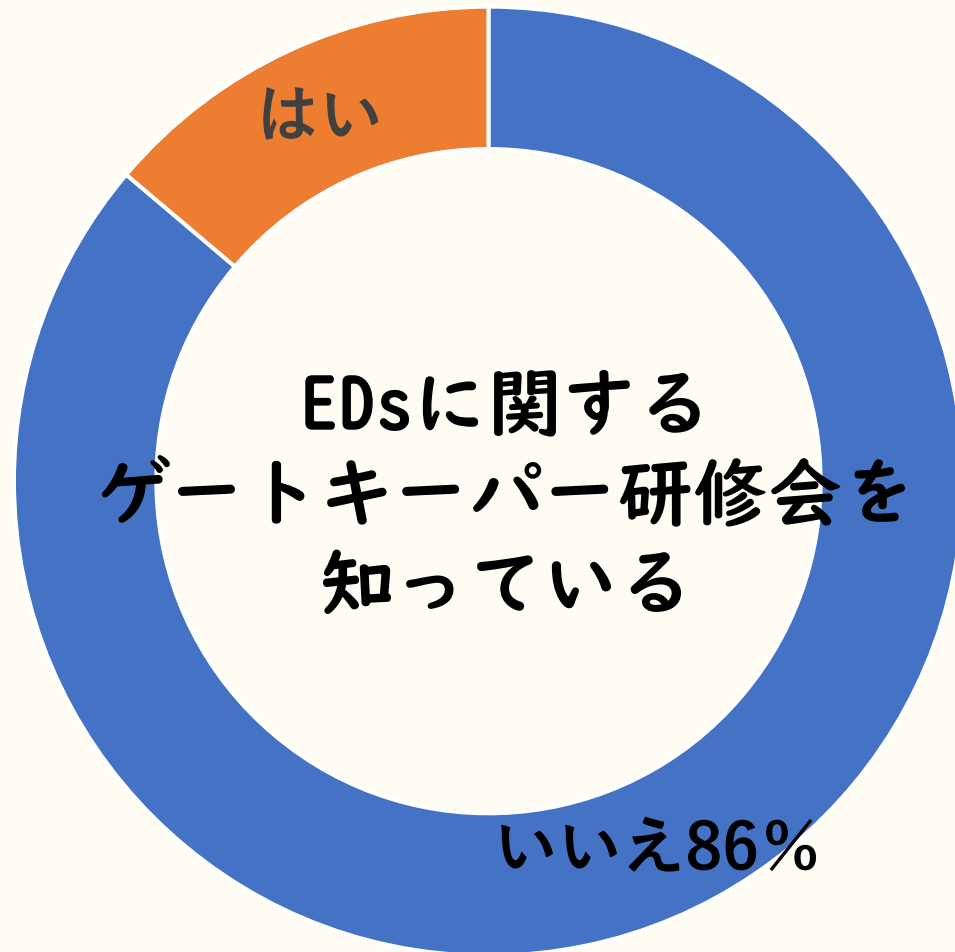
養護教諭経験年数と対応指針の所持



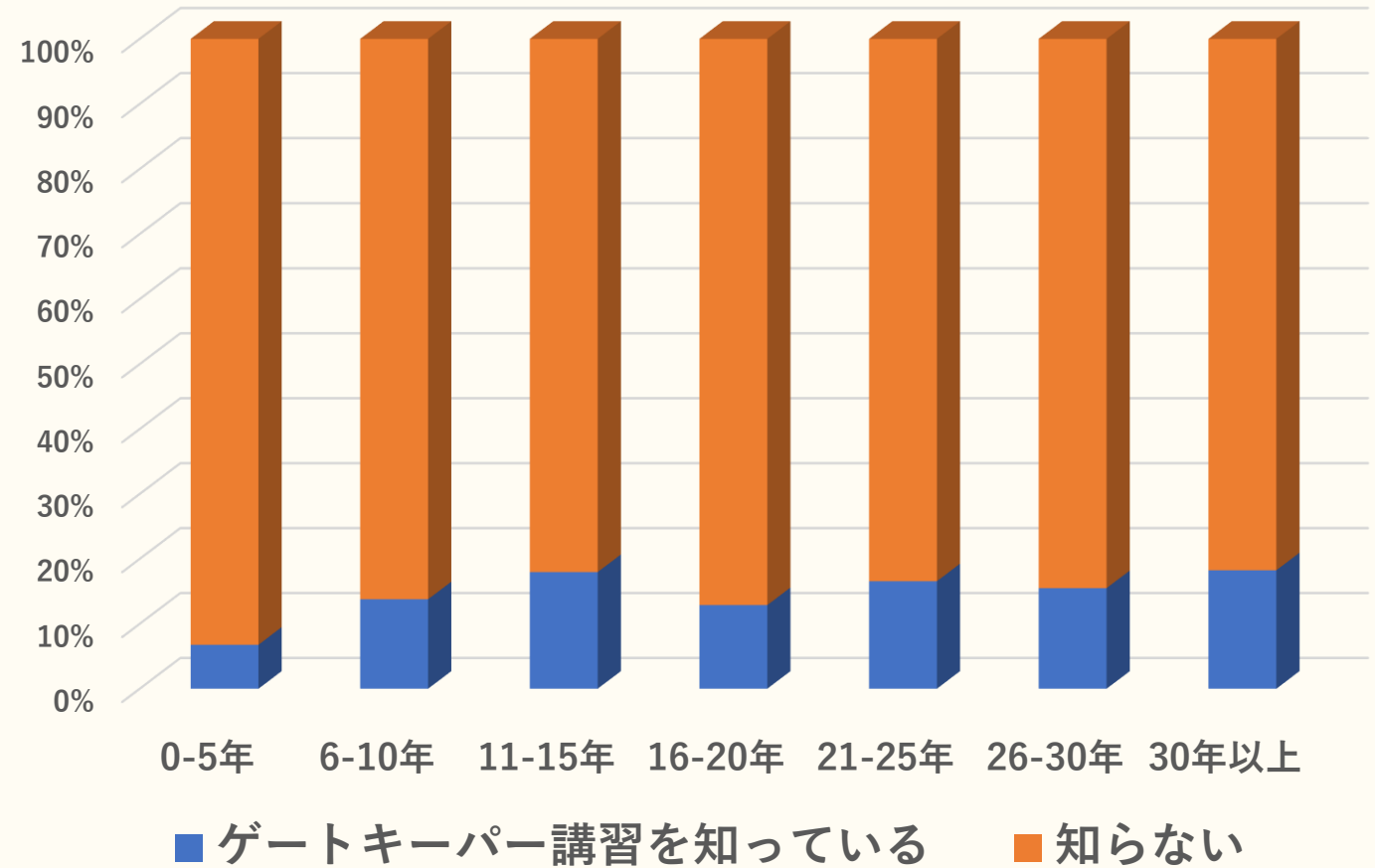
対応指針に関するオンライン情報の周知



摂食障害に関する研修の周知



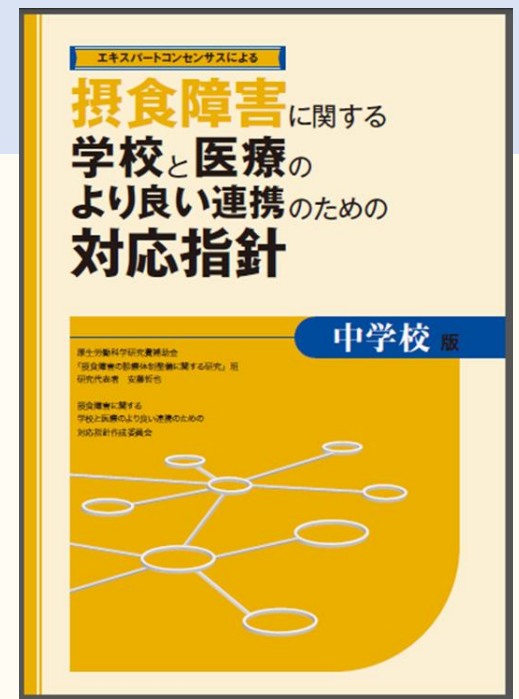
養護教諭経験年数とゲートキーパー講習の周知



まとめ

摂食障害治療において学校が担える役割

危機的状態のGatekeeper



“学校での不適応が病気を発症／悪化させる” = 問題志向
→ 学校は**治療の協力者** = **解決志向**

今後の課題：

「摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針」
のさらなる普及促進